

丸山台周辺の歴史と自治会の誕生

1. 鎌倉・江戸時代・明治・昭和時代の歴史

【鎌倉時代前】

平安時代（11世紀末）に書かれた「更科日記」の作者は、上総の国（現在の千葉県）から京へ戻る途中に港南の地を通ったと考えられています。

また、港南区付近は鎌倉時代以前には、大岡川水系に属する久良岐郡と永谷川水系に属する鎌倉郡にまたがる山林農村地帯で平安から鎌倉時代にかけて現在の野庭あたりに飯島城なる砦が築かれていたようです。

【鎌倉時代】

鎌倉時代に入り、南北に通じる鎌倉街道を挟んで集落が点在していたと思われます。源頼朝により「かまくら古道」が整備されていたようです。

そのひとつ「下の道」の説明看板が馬洗橋（湘南交通（株）の近く）にあり、馬洗川に沿って古道があったようです。

現在は馬洗川の脇に沿うように遊歩道が整備され、天谷大橋の近くに一休みできる場所もあります。



馬洗橋にある説明看板と「下の道」の部分の拡大 天谷大橋付近の馬洗川また、この写真は「下の道」に並行するように、遊歩道も備えた道（通称：グリーンベル

ト) として整備され、ジョッキングしている人、犬と散歩している人、子どもと遊んでいる親子などをよく見かけます。



【江戸時代】

江戸時代、相模国鎌倉郡のうち江戸より十里の永谷郷に属して「永谷上村」といわれていましたが、明治 22 年市町村制施工の折に永谷と野庭の頭文字をとって、鎌倉郡永野村となりました。

【明治時代】

「明治の大合併」で久良岐郡大岡川村、日下村、鎌倉郡永野村ができ、永谷、野庭地区は神奈川県鎌倉郡に属し、上大岡、笹下、日野地区は現在の中区、南区、磯子区、金沢区および西区の一部と共に神奈川県久良岐郡に属するようになりました。

【昭和時代】

昭和 11 年、永野村は横浜市に編入され横浜市中区になりました。その頃の馬洗川、永谷川は幾多の小魚が右往左往する姿が手に取るように見え、夏には川一帯に蛍が飛び交う清流でした。全域に亘たり小丘が起伏して、その丘山は雑木林、所々に松杉の森林、小丘の周に田畑の耕地が広がり、農家 13 軒が散在していました。その中で、酪農 6 軒・養豚 2 軒・養鶏 1 軒で、他は米・野菜・お茶・炭焼きなどでした。

当時の地図から字名として、丸山、五反田、六反田、深田、籠森などがありました。これらの字名は、公園の名前として残っています。



この写真は、現在の丸山台公園並びに六反田公園、深田公園、籠森公園です。野球やサッカーなどのスポーツ、子どもの遊び場並びに散歩などの憩いの場として利用されています



遊具設備

モニュメント
園

野球場丸山台公



六反田公園

深田公園

籠森公園

2. 丸山台の宅地造成と自治会発足

丸山地域は、昭和 40 年台初頭、上永谷に残された数少ない自然豊かな田園地帯でした。そこに既に周辺地区を開発していた京浜急行(株)から昭和 42 年頃地元住民に話が持ち込まれ、さらに当時横浜市営地下鉄が丸山地区を通る話もあり、大いに議論した結果、地下鉄開通を前提とした街づくりを区画整理組合方式で進めることになりました。

昭和 46 年に地権者達により土地区画整理組合が結成され、昭和 49 年に土地造成に着手、港南台地区同様に全面的に地形が改変され、以前の面影を残すことなく整然とした区画整理が昭和 50 年頃には完了しました。地下鉄の工事も昭和 47 年に着手し昭和 51 年に上永谷駅・上大岡駅間が開通し、横浜駅まで乗り換えなしで行くことができるようになり、今では上永谷駅を扇の要として人口 7 千人あまりの 1 戸建て住宅を中心とした風格ある街並みを誇っています。

丸山台の名称は、土地区画整理事業の収束に伴って、「住居表示に関する法律」に基づき、町名、町堺、地番を整理することになり、まず町名変更について土地区画整理組合の組合員にアンケートをお願いすることになりました。この地域には、丸山、籠森、深田、六反田及び又口の 5 つの字名があり、中では「丸山」が一番大きな地域を占め、農家の多くもここに住んでおりました。

そこで、町名の候補を「永谷」「丸山台」「永野台」「真水谷」としてアンケートをお願いしたところ、「丸山台」が有効アンケートの 60% を占めて新しい町名として予定されました。

その後、横浜市市民局住居表示係と調整作業を致しまして、「丸山台 1 丁目、2 丁目、3 丁目、4 丁目」という新しい町名が決定したのです。

そして、昭和 55 年（1980 年）7 月に丸山台自治会が発足しました。

3. 丸山台第二自治会館に祭られている石碑

丸山台地区のあちこちにお祭りされていた石碑・石仏が土地区画整理事業に伴って集められ、第二自治会館にお祭りされています。

年代はさまざまで当時の面影が偲べれます。これらの石碑について、横浜市教育委員会による説明看板もあります。



この石碑について、説板によるとその目的及び当時の様子がわかります。江戸時代の庶民信仰を表しているばかりでなく、道標として交通路をも示しています。



庚申塔
享保 7 年
(1722 年)



堅牢地神塔
明治 4 年
(1871 年)



廻国塔
安政 7 年
(1778 年)



道祖神塔
明治 10 年
(1877 年)



社軍司塔
明治 37 年
(1904 年)



不明